

プレス発表資料

平成 26 年 6 月 2 日
独立行政法人 防災科学技術研究所

第 5 回防災コンテストの開催について

～災害に強い協働型地域社会を目指して～

独立行政法人防災科学技術研究所（理事長：岡田義光）は、「第 5 回防災コンテスト（e 防災マップ・防災ラジオドラマ）」を開催し、参加グループの募集を 6 月から開始します。

本コンテストでは、「e 防災マップ」と「防災ラジオドラマ」の作成と活用を通じて、さまざまな地域コミュニティが協働し、災害時に地域で起こりうる課題と対策を話し合い、具体的な地域コミュニティの協力体制を構築することで、災害に強い地域社会づくりを目指しています。

今回の「第 5 回防災コンテスト」では、地域の特性を自動で診断できる「地域防災キット」を組み込んでいます。また、参加グループの種類、活動のテーマ、活動経験の程度を考慮した評価を行います。

本コンテストは、防災活動に取り組みたいグループなら、どのようなグループでも参加可能です。自主防災会など防災活動を行うことが目的のグループに限定してはおりません。たくさんのご応募をお待ちしております。

第 5 回防災コンテスト ウェブサイト <http://bosai-contest.jp>

1. 内容：別紙資料による。
2. 本件配布先：文部科学記者会、科学記者会、筑波研究学園都市記者会

第5回防災コンテストの開催について

～災害に強い協働型地域社会を目指して～

1. はじめに

独立行政法人防災科学技術研究所（理事長：岡田義光）は、「第5回防災コンテスト（e防災マップ・防災ラジオドラマ）」を開催し、参加グループの募集を6月から開始します。

本コンテストでは、「e防災マップ」と「防災ラジオドラマ」の作成と活用を通じて、さまざまな地域コミュニティが協働し、災害時に地域で起こりうる課題と対策を話し合い、具体的な地域コミュニティの協力体制を構築することで、災害に強い地域社会づくりを目指しています。

2. 開催概要（参考資料1）

◆主催	独立行政法人 防災科学技術研究所
◆後援	内閣府、文部科学省
◆協賛	NTT 空間情報株式会社
◆応募締切	平成26年12月下旬 (日付が決定いたしましたらweb上にてお知らせいたします。)
◆対象者	地域の防災力を高めたいと考えているグループ(自主防災会など防災活動を行うことが目的のグループに限定しません。)
◆表彰	e防災マップ：最優秀賞1点、優秀賞10点程度 防災ラジオドラマ：最優秀賞1点、優秀賞10点程度
◆結果発表	平成27年2月上旬
◆表彰式	平成27年2月下旬から3月中旬
◆ウェブサイト	http://bosai-contest.jp/

■応募内容

e 防災マップ	地域の防災資源や危険箇所をはじめ、災害時に行う対応や日頃行う防災活動などを、地図として空間的に表現したものです。
防災ラジオドラマ	地域の防災に関する課題や災害時に起こりうる事態と、その改善につながる対策のアイデアなどを、時間の流れに沿って整理し物語形式に表したものです。

■審査方法

防災に関わる学識経験者により構成される審査委員会にて、以下の視点に基づき、厳正な審査を行います。

- a. 地域の災害特性や防災対策の現状、地域課題について調査し理解していること
- b. 地域の様々な関係者と協力しながら作品を作っていること
- c. 作品を活用し、地域の様々な関係者とコミュニケーションを図っていること
- d. 地域防災上の新たな課題や改善につながるアイデアが含まれていること
- e. 地域防災上の現状を見直して、新たな防災の取組みにつながる提案となっていること
- f. 作品として優れたもので、作品に含まれているメッセージが地域に伝わること

■表彰式・シンポジウム

平成27年2月下旬に表彰式・シンポジウムを開催します。その中で、受賞グループの代表者、審査委員、一般参加者による意見交換および交流ができる企画を予定しています。作品のアップールや防災活動における知恵の共有などを通じて、新たなつながりを発見する場としてご活用いただけます。

■第5回防災コンテストの特徴

これまでの4回のコンテストでの経験を踏まえ、第5回コンテストでは新たに以下のような工夫をしています。

- ・ 防災活動に初めて取り組むグループと、継続的に取り組んでいるグループとの違いを配慮した評価を行います。
- ・ 参加グループの種類や活動の目的・テーマを考慮した評価を行います。
- ・ 参加グループが利用する「地域防災キット」（参考資料2）がバージョンアップします。防災の観点からの地域の自然特性や社会特性の診断機能が利用できます。

なお、これまで同様に、コンテスト終了から1年間はグループページを継続利用できます。コンテストをきっかけに、継続した防災活動につなげていただくことが狙いです。

3. これまでの防災コンテストについて

当コンテストは、これまでに4回開催しています。全国から約400のグループが参加し、優れた防災活動事例が蓄積されてきています。

■参加グループの例

- ・ 消防団、自主防災組織、避難所運営組織など防災を目的としたグループ
- ・ 近隣の知人や友人など仲間が集まったグループ
- ・ 自治体・町内会、子供会、老人会など地域住民によるグループ
- ・ 中学生・高校生・大学生・各種専門学校など学生によるグループ
- ・ 福祉団体、まちづくり団体、障がい者支援団体、NPO など地域を支えるグループ
- ・ イベント実行委員会、コミュニティ FM、民間企業、NPO、民間企業 など

■テーマの例

- ・ 避難タイミングの判断支援
- ・ マンション高層階での救急救命
- ・ 要援護者の避難支援
- ・ 登下校中の安全な避難
- ・ 帰宅困難者支援
- ・ 防災拠点での情報共有
- ・ 福祉サービスの継続
- ・ 避難所の運営
- ・ 災害体験・伝承 など

■過去の受賞作品

下記の URL にて過去の「e 防災マップ」と「防災ラジオドラマ」の受賞作品を公開しています。

<http://bosai-contest.jp/past.html>

■受賞作品の例

【千鳥地区防災マップ】（第4回e防災マップコンテスト 最優秀賞）

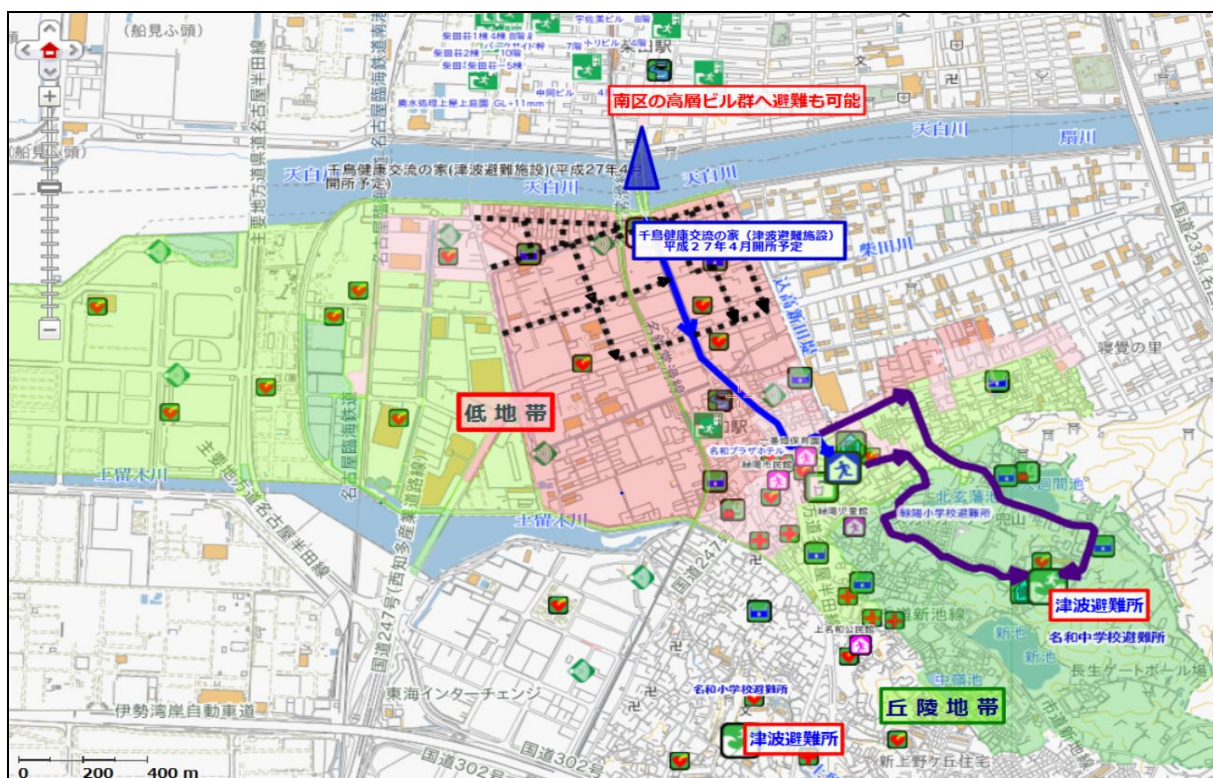
- ・グループ名：緑陽コミュニティ（愛知県東海市）
- ・主体：千鳥地区盆踊り実行組織
- ・対象災害：津波・水害
- ・テーマ：避難

・概要

過去の伊勢湾台風の被災履歴（写真や関連資料など）と浸水ハザードマップより、海拔 0m 地帯での地震・津波の危険性を認識し、複数の自治会や学校、行政などの様々な地域コミュニティが協力し合い、防災マップを作っています。

・特徴

- ① 地区のお祭り実行委員会である「千鳥地区盆踊り実行組織」が軸になり、地域間・世代間の交流を通じて防災活動に取り組んでいます。
- ② 十数回の会合やまちあるきなど、活動を通じて様々な情報を集約したあと、「避難」という目的のために情報を絞って見やすい地図を作っています。



避難経路の確認



子供会との共同勉強会



東海市小中学校との
共同避難訓練

・グループページ URL:

<http://bosai-contest.jp/emap2013group-award/index.php?gid=10218>

【避難所・避難経路マップ】(第1回e防災マップコンテスト 審査委員会特別賞)

・グループ名：We ♥ Sengen (茨城県つくば市)

・主体：自治会長と親子 ・対象災害：地震 ・テーマ：協力関係の構築

・概要

地域内に防災備蓄が無いという課題に対し、自治会長が近所の親子の協力を得て、地元事業所や商店などに対する災害時の協力支援についてアンケートを実施し、その結果をもとに防災マップを作っています。

・特徴

- ① 小学生の夏休みの自由研究をきっかけに、子供と保護者が参加した地域の防災活動に取り組んでいます。
- ② 平時からの防災マップづくりを通じ、地域の防災対策として地元の事業所や商店との災害時に協力し合える関係を作っています。



企業協力の呼びかけ

協力企業の情報整理

防災マップづくり

※2011年3月11日に東日本大震災が発生した際、千現の避難所(二の宮小学校)に避難した住民や帰宅困難者のために、発生前に築いた協力体制に基づき、地元事業所や商店から水や食料などの物資提供や人的支援が得られました。地元 FM 局 (ラジオつくば) の取材に対して、「マップづくりの活動が実際に効果として出ている」と We ♥ Sengen の活動メンバーのコメントが書かれています。

・グループページ URL:

https://bosai-contest.jp/emap2010/06_sengen.html

【防災拠点 道の駅藤川宿】（第3回防災ラジオドラマコンテスト 優秀賞）

- ・グループ名：愛知産業大学三河高等学校放送部（愛知県岡崎市）
- ・主体：高校生
- ・対象災害：水害・土砂災害
- ・テーマ：防災情報の発信

・概要

新しくできた道の駅において、地域の防災拠点として災害時の情報提供を行うために、高校生の視点から情報収集と情報発信のあり方を検討した内容を防災ラジオドラマとして作っています。

・特徴

- ① 対策を検討する際には、該当地域の過去の被災状況（ビデオや写真など）を調べ学校文化祭に出展するとともに、公開アンケートという形で文化祭参加者から防災対策のアイデアを公募しています。
- ② 地域内の防災タクシーを活用した情報の収集と、県域FM局と協力した情報の発信という新たな対応策を提案しています。

脚本の概要：

大雨による土砂災害が原因で、道の駅に帰宅困難者が集まりました。道の駅は情報収集と情報発信のあり方を模索し、防災拠点として最悪の状況を回避する手立てを実行していきます。

防災ラジオドラマ

グループ 「愛知産業大学三河高等学校放送部」

タイトル 「防災拠点 道の駅 藤川宿」

【S.M】 豪雨

中田 舟 「起きなさい。」

中田 「うーん、よく寝た気がしない。」

【S.M】 藤川駅ホーム降車

杉村 「おはよう。なんか、昨日大雨降ってたね。」

中田 「そうだな。まあ、朝、雨が上がってくれてよかったけどな。」

杉村 「きのうから、もうとする雨風がききになると、夏休み最後の部活動だからね……」

【S.M】 部活動中の音

先生 「静かに！ 突然だが、今日の練習はここまで、みんなも知っていると思うが、昨日からゲリラ豪雨が至るところで観測されており、最新の気象情報で、活発な雨雲が発達しながら近づいているとのことだ。この地域の累積雨量が土砂災害警戒レベルに近しいので、今日は早く帰らなさい。」

【S.M】 下足ロッカー

中田 「気になるのは、高速道路の状況」

立花 「高速道路が通行止めになると、国道大渋滞になるからね。」

中田 「そうだな……」

【S.M】 雷雨

立花 父 「中根駅長、前の八月末豪雨より、ひどくなっている所もある。手伝えることあったら言ってくれなさい。」

駅長 「気象情報や交通情報はある程度インターネットを活用すれば集まるが、この周辺は状況は、ドライバーの声を聞かないとね！」

立花 父 「美合地区から岡崎まで付近の低い土地、道路が川みたいになっている。大型車は通れるが、乗用車は立ち往生しています。対処しないと、大渋滞が発生する。防災タクシーとして関係機関には伝えたいけど……」

駅長 「先ほど道の駅の混雑状況をミニタイムにも連絡したけど……」

中田 「新聞にも載ってたろう。防災拠点 道の駅」

立花 「ハザードマップとかも、あまり見なくて……」


中田 「人のことを考えないけど、防災タクシーの娘がこれだから……」

【S.M】 雷鳴


立花 「停電、信号機光ってないよ。」

駅長 「非常発電機を動かしています。安心して下さい。」

NA 「ゲリラ豪雨に伴い、停電、国道渋滞、鉄道運転合わせ。状況が深刻化していきます。」



アイデアの募集



脚本の音声収録

・グループページ URL：

<http://bosai-contest.jp/drama2012group-award/index.php?gid=10042>

【スポーツ少年少女の SAIGAI 防衛隊！】

(第4回防災ラジオドラマコンテスト 優秀賞)

・グループ名：町田市テコンドー協会(東京都町田市)

・主体：スポーツ団体 ・対象災害：地震 ・テーマ：防災活動のはじめの一歩

・概要

地域内のテコンドー道場の子供たちが被災地でのスポーツ交流をきっかけに、子供たちの視点から自分のまちを守るための防災活動について考え、その過程と内容を防災ラジオドラマとして作っています。

・特徴

- ① 大都市において地域コミュニティの存在が薄れていく中、都市型特有のスポーツ協会の活動を通じて地域の防災活動をはじめています。
- ② 全国のテコンドー大会の中に防災活動の内容を展示し、参加した子供たちから大人まで、スポーツをきっかけにした協力の輪を広げています。

脚本の概要：

町田市テコンドーの道場に入場している子供たちが自分の町を守るために、自分たちもできる活動を考え、師範など大人たちと一緒に地域で防災活動をはじめています。

「スポーツ少年少女の SAIGAI 防衛隊！」
プロローグ ナレーション①

東日本大震災が発生したのち、田健さんは、宮城で活動している古くからの友人テコンドー選手を訪ねて南三陸町に向かった。まだ震災から二ヶ月と少ししかたっていないが二年ぶりのことである。

沿岸部に近づき、すべてがなぞ倒され流され、学校の校舎だけがボツンと残された光景を見て愕然とした。

幸いなことに知人は津波被害から難を逃れて無事であった。幸運を喜びつつ、現地道場だけでなく地域全体の子供たちの精神的なストレスの問題がとそれから少し経ったあと、東京の教え子たちを東北道場にスポーツした。

彼らは、南三陸町や女川町など震災の傷跡を視察し、石巻市の話地の生の声も聞いた。

登場人物

田健さん (東京都町田市のテコンドー道場の館長、偉い人)
真白さん (東京都町田市の若手テコンドー選手)
赤堀くん (子供1、元気があの子)
青谷くん (子供2、頭がいい子)
桃井さん (子供3、やさしい子)
テレビ局 (地元のケーブルテレビ局)

エピソード ナレーション⑥

そして、自分たちが町を守るために、その町を「よく知り」、「よく巡り」、「人に伝えよう」と、町歩きマップの作成へと彼らは動き始める。

地域を守るのには、結局は自分たちなのです。なにこともおられない平和な時間が続くことを忘れがらですが、

さあ、みなさんも、自分の町を守るために立ち上がってみませんか。

シーン4 指導員たちとミーティングで新年からの目標を語り合う
ナレーション⑤

大会は無事に終了。今後も、日常から何かできないかと大人たちに相談してみる。

赤堀くん 「でも、子供でもできることってなんだろう。」
青谷くん 「石巻市の語り部さんたちが町の説明をされていたように、僕たちも自分の町のことを調べて良く知って、いろんな人に伝えたらどうかな？」
桃井さん 「友達も誘って、散歩気分でも楽しく町を歩きながら見て回るのはどうかな？ピクニックみたいな感じで。」
真白さん 「じゃあ、我々も、自分たちの町を改めて歩いて巡ってみようか。そこで発見したことをみんなに知らせてあげるのはどうかな？」
田健さん 「それはいいね。大人じゃわからない子供の目線で気づいた危険なことや、安全な場所をみんなと一緒に話して合点と、いろんなことがわかってくると思う。真白さんを隊長に任命するから、ぜひやってみよう。」



(全国) テコンドー大会

防災関連展示 (同時開催)

・グループページ URL：

<http://bosai-contest.jp/drama2013group-award/group.php?gid=10175>

2014年度
第5回

地域の絆をつくる

Bosai
contest

防災コンテスト



- テーマ例**
- 避難タイミングの判断支援
 - マンション高層階での救急救命
 - 要介護者の避難支援
 - 登下校中の安全な避難
 - 帰宅困難者支援
 - 防災拠点での情報共有
 - 福祉サービスの継続
 - 避難所の運営
- 参加グループ例**
- 自治会
 - 自主防災組織
 - 学生
 - 福祉団体
 - まちづくり団体
 - 学校・PTA
 - 地域の一般企業
 - その他防災活動に取り組みたい方

防災活動に取り組んでみませんか？

防災活動を共に取り組む仲間、災害時に協力し合う仲間との絆をつくりながら地域の防災力を高めましょう。

<p>主催</p> <p>国立防災科学技術研究所</p>	<p>後援</p> <p>内閣府</p> <p>文部科学省</p>	<p>協賛</p> <p>NTT空間情報</p>
------------------------------	-----------------------------------	--------------------------

防災コンテスト公式サイト <http://bosai-contest.jp>

日程

- 申込開始 …… 2014年 6 月
- 応募締切 …… 2014年12月下旬
- 結果発表 …… 2015年 2月上旬
- 表彰式シンポジウム …… 2015年 2月下旬

防災コンテスト

検索

■ 地域防災キットについて

当研究所が開発したeコミュニティ・プラットフォームをベースに、地域防災の手順を示して実施できるWebツールです。防災コンテストの手引きに沿った手順を示すことができるほか、防災活動を行う地域の情報を引き出し、それを活用することができます。

第4回コンテスト参加者グループページ
(第5回コンテストに向けてグレードアップ予定)

2013 第4回 防災マップコンテスト
〇〇自主防災会のページ

第4回 防災マップコンテスト グループページ > 〇〇自主防災会のページ

ログイン/ログアウト 現在 防災研 田口 としてログイン中
ログアウト
パスワード変更

手引き
▶ 防災コンテスト 基本ガイド
▶ eコミ 操作マニュアル
▶ 防災マップづくりの手引き
▶ マップワークシート PDF WORD
▶ 防災ラジオドラマづくりの手引き
▶ ドラマワークシート PDF WORD

防災コンテスト 資料集
募集要項・応募書類 PDF WORD
過去の受賞作品
e防災マップコンテスト
第1回 (2010年)
第2回 (2011年)
第3回 (2012年)
防災ラジオドラマコンテスト
第1回 (2010年)
第2回 (2011年)
第3回 (2012年)

主催 独立行政法人 防災科学技術研究所
後援 内閣府 文部科学省
協賛 NTT空間情報
マニュアル eコミ マニュアル eコマラ マニュアル

地域設定と社会統計

地域を指定すると、その地域の様子を社会統計情報から知ることができます。

地域設定 住所 茨城県 つくば市 天王台
地域設定 地域社会データ

地域の面積	880157.2 m ²
地区の人口	4462.0 人
地区の昼間人口	2009.9 人
地区の夜間人口	2398.8 人
地区世帯数	2322.0 戸
65歳以上の親族がいる世帯数	207.0 戸
6歳未満の親族がいる世帯数	318.0 戸
建物数 (住宅)	885 棟
集合住宅の面積	100 m ² 以上
集合住宅の棟数	468 棟
戸建て住宅の棟数	417 棟

地域のハザードマップ

指定した地域のエリアから、マップ作成の際にダウンロードして活用できるハザードマップ等のマップを探します。なお、エリア内に自治体のハザードマップが無い場合もありますので、ご了承ください。

地震 津波 水害 火山 土砂 その他

●地震災害
突発的な災害です。地球を覆うプレートの運動や、活断層が活動して大きな揺れを起こします。揺れによる建物倒壊、火災、がけ崩れや地滑りなどが地震をきっかけに起きます。

つくば市のハザードマップ
検索件数: 2件 / 2件中

つくば市揺れやすさマップ
本市の地盤構造モデルをもとに、本市に影響を及ぼすとみられる「茨城県南部地震」及び「全国どこでも起こりうる直下の地震」を設定し、地域ごとの揺れやすさを算定します。揺れやすさマップは、市域を50mメッシュに切り分けて、それぞれの場所での地表の想定震度を表します。

登録日 2008-03-31
キーワード 地球科学の情報 位置 社会

つくば市地域の危険度マップ
本市で作成した揺れやすさマップに示された各メッシュの震度をもちに、町丁目単位で設計した建築物の構造や建築年代の状況から予想される被害の状況を表しています。地域の危険度マップは、揺れやすさマップで作成した50mメッシュのうち、おおよそ建築物が建っている場所の危険度を表しています。

マップの新規作成

検索したハザードマップを使って、マップの作成準備をすることができます。ここで準備したマップを使って、実際にマップ画面から情報を登録して地図を作ることができるようになります。

地図名称:
地図説明:

マップを新規作成

作成済のマップはありません

防災マップの作成

マウスクリックで簡単に防災マップが作成できます。

まちあるき用、話し合い用にマップを印刷することが可能です。

防災活動を行う地域において、地域防災の観点から地域の特徴を自動で診断します。

自然特性: 揺れやすさ、地震の起こりやすさ、浸水が想定されているか、など
社会特性: 人口密度や災害弱者になりうる人の割合など

利用できるハザードマップを検索します。

検索したハザードマップ等を下敷きに、対策の目的に応じた防災マップを複数作成できます。

マウスクリックで簡単に防災マップが作成できます。

まちあるき用、話し合い用にマップを印刷することが可能です。